

平成24年度

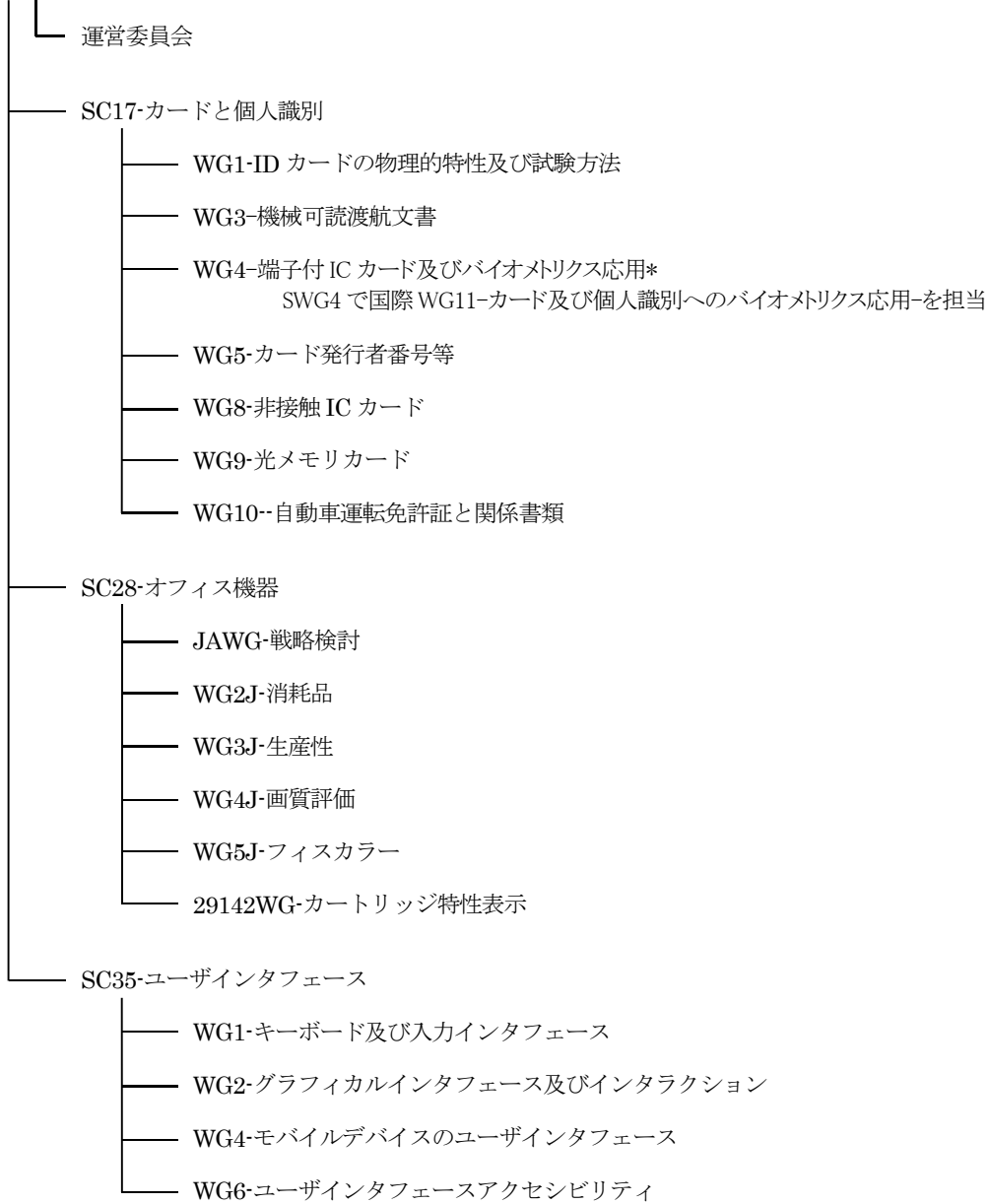
# 国際標準化活動報告

平成25年3月31日

一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMLA)  
ISO事務機械国内委員会

## 国内委員会組織図

ISO 事務機械国内委員会



# 1 ISO 事務機械国内委員会

## 1-1 活動概況

### (1) 総会および運営委員会

総会 1 回（平成24年5月）、運営委員会2回（平成24年4月、平成25年1月）を実施した。

### (2) 国際標準化活動

国際標準化活動において積極的に国際貢献を果たした。

#### 1) 国際会議委員派遣

49の国際会議に、延べ188名の委員を派遣した（平成23年度は57の国際会議に、延べ211名）。

#### 2) 国際規格投票

以下の国際規格投票に対し回答原案を作成し、またISが発行となった。（ ）内は平成23年度

SC	NP	CD /PDAM /PDTR:	FCD /FPDAM	DIS /DAM /DTR	FDIS /FDAM	Project 合計	Systematic Review (定期見直し)	IS発行 /TR発行
SC17	5 (4)	22 (13)	0 (9)	16 (0)	11 (15)	54 (41)	7 (8)	14 (9)
SC28	2 (3)	3 (0)	0 (1)	3 (6)	2 (2)	10 (12)	7 (1)	9 (3)
SC35	4 (7)	14 (9)	0 (2)	13 (2)	3 (1)	34 (21)	9 (1)	7 (2)
合計	11 (14)	39 (22)	0 (12)	32 (8)	16 (18)	98 (74)	23 (10)	30 (14)

Corrigenda数は、除外

### (3) 予算・決算

平成23年度決算、平成24年度予算の承認および平成25年度予算案の作成を行った。

### (4) 各SCの活動

#### 1) SC17

SC17 は、カード及び個人識別を対象とし、各種カードの要素技術から利用システム（クレジット・IC 旅券・運転免許証等）までを含む国際互換性に関する標準化と登録管理を担当している。

第25回 SC17 総会はニューオーリンズ（米国）で開催され、わが国からは8名が出席した。同総会では、日本から追加議題として提案し議事案に組み込まれた「定期見直し後の国際標準改定の効率化」（改定に大きな負荷を要する項目のNPあるいはPWIとしての分離審議）について、課題の共通認識を図ったうえで総会決議としての合意を形成する等 SC17 全体としてのマネジメントの効率化にも貢献した。

本年度も各 WG 等の活動において、実装の実現性・後方互換を含めた互換性・拡張性・全体的整合性等の観点からの詳細なレビュー及び考察と実験データに基づき日本意見の反映を図るとともに、国内外関係機関と連携して国際標準化の推進に努め、要素技術及び IC 旅券・運転免許証等に関する標準化活動を主導している。

WG3/TF4 (IC 旅券の試験方法) では日本が引続き国際コンビーナを務め、IC 旅券に関する国際互換性確保のための活動を推進している。また、WG10 (自動車運転免許証及び関係書類) では日本が国際セクレタリを務め、運転免許証に関する国際標準化を推進している。

WG 1 (ID カードの物理的特性及び試験方法) では、ISO/IEC 24789-2 (カードサービスライフ第 2 部: 評価方法) の改定コエディタを日本から出すとともに、提案された新規試験項目を含めた国内での評価試験結果に基づき修正を主導している。

WG4 (IC カード) では、多くの分野で利用されている ISO/IEC 7816-4 (IC カード第 4 部: 交換のための構成、セキュリティ及びコマンド) の改正について、日本から問題提起した後方互換性確保の課題を解決し発行準備段階(60.00)に入っている。これに伴い ISO/IEC 7816 シリーズの他の各部 (第 6 部、第 8 部、第 9 部、第 11 部、第 12 部、第 15 部) の改正審議が開始されている。また、日本提案のバイオメトリクス応用のための新コマンド、PBO (Perform Biometric Operation) コマンドの ISO/IEC 7816 シリーズへの反映を推進している。

更に、WG4 を中心とする複数 WG にまたがる標準化項目としての Devices on Cards (仮題) については、WG 間・国際間の意見調整が難しく審議が難航しているが、物理的側面と論理的側面に分けた検討を行うとともに、論理的側面について審議の方向性をリードすべく日本から仮想的なアーキテクチャの提案を行うことで貢献している。

WG5 (カード発行者番号等) では、ISO/IEC 7812 (カード発行者番号) シリーズの改定について、同規格の利用者に誤解を生じさせない記述とするため日本から多くの指摘を行い修正に貢献した。

WG8 (非接触 IC カード) では実験データに基づく提案等によって複数のアンテナサイズ、電磁雑音レベル、超高速伝送等の追加規格を含む ISO/IEC 14443 (近接型非接触 IC カード) シリーズの改正に貢献するとともに、後方互換性確保を含めた合意形成のために日本からエディタも出して貢献している。

## 2) SC28

SC28 (事務機械) は日本が国際幹事国業務、議長国を引き受け、積極的に活動を行っている。現在WGは6つ(戦略検討、消耗品、生産性、画質評価、オフィスカラー、カートリッジ特性)あり、日本はいずれのWGにも参加している。

JAWG (戦略検討)の 2012 年度の活動は、昨年度に引き続き、新規分野である PWG6 のための課題検討、Terminology、Roadmap と米国から提案のあった Work Scope の改訂検討を行った。新たな課題設定はなかった。また AWG で日本から提案した ISO/IEC 10779 (Accessibility) の改訂提案を行った。

WG2J (消耗品) では下記の 3 標準について、両面印刷が初期設定されている装置においても、測定は片面印刷で行うことを明記した追補版を発行した。

- ・ ISO/IEC 19752 : モノクロ電子写真プリンタのトナーカートリッジ印刷可能枚数測定方法
  - ・ ISO/IEC 19798 : カラー電子写真プリンタのトナーカートリッジ印刷可能枚数測定方法
  - ・ ISO/IEC 24711 : カラーインクジェットプリンタのインクカートリッジ印刷可能枚数測定方法
- また、下記の 3 標準について定期見直しを行い、継続確認した。
- ・ ISO/IEC 19798 : カラー電子写真プリンタのトナーカートリッジ印刷可能枚数測定方法
  - ・ ISO/IEC 24711 : カラーインクジェットプリンタのインクカートリッジ印刷可能枚数測定方法
  - ・ ISO/IEC 24712 : 事務機械消耗品の印刷可能枚数測定用カラーテストページセット

WG3J (生産性) では以下の活動を主におこなった。

- ・ ISO/IEC 11160-2 (プリンタ仕様書様式) は、日本がエディタを務め全面改定を進めていたが、

DIS への移行が承認された。

- ・ ISO/IEC 24735 (複写生産性測定方法) (日本がエディタ)が無事 ISO 化された結果、この ISO に包含される前任 ISO/IEC 14525 を撤回することとなった。
- ・ ISO/IEC24734 (プリンタ生産性測定方法)が CD 登録されることとなった。
- ・ 日本から提案の ISO/IEC 21118 (Data Projector) は、DIS 投票討議の結果を反映させて FDIS に登録することとなった。

WG4J (画質評価)については、日本がエディタを務める ISO/IEC TS 24790(画質属性測定方法)は、2012 年 8 月に Technical Specification(TS:技術仕様書)の第 1 版が、12 月に第 2 版が ISO より発行された。また、ISO/IEC TS 29112(白黒レーザープリンタの解像力測定法およびテストチャート)が 2012 年 7 月に第 1 版が発行された。ISO/IEC TS 24790 及び ISO/IEC TS 29112 は、国際標準化を目指して活動を再開した。

ISO TC130/WG3 が ISO/IEC TS 24790 及び ISO/IEC TS 29112 の画質属性測定方法を利用したいということで、ISO TC130 JWG14 が 2012 年 10 月に構成され、コンビーナとして SC28/WG4 委員が任命され、マルチパート規格 ISO TS 18726-X の開発がスタートした。

(Resolution 18 : Formation of JWG with TC130)

また、毎月 1 回、Web 会議 (Web-conference) が開催され、TS 開発の進捗度報告、推進方法、TC130 対応方法などを討議した。

WG5J (オフィスカラー)ではカラー分野は 2009 年に新しく標準化に着手、それに伴い WG 設立と大きく進展し、一昨年 of 釜山総会では、新たな WG5 (オフィスカラー)が発足した。

設立時に日本が積極的に提案活動をしていたこともあり、SC28 の WG としては初めて WG5 の主査を日本で引き受けている。

29142WG(カートリッジ特性)では 5parts 構成で検討を進めていたが、Part4,5 は 2012 年 6 月開催の SC28/WG2 London 会議で、プロジェクト廃止を決定した。従って、Part1, Part2, および Part3 の 3 つの Part で標準を開発した。カートリッジ特性標準に影響する全体概要を規定する Part-1(一般:用語、記号) および、公表方法を規定する Part -2(標示)は DIS 登録することとなった。

いずれも 3 月末に IS 発行された。

Part-3(環境)は 2013 年に FDIS 承認、同 2 月に IS が発行された。

### 3) SC35

国際 SC 35 では、7 つの下記 WG において規格化活動が行われている。幹事国/議長国はフランスが務め、日本は 2 つの WG のコンビーナ (WG 2, WG 4) を務めている。

国内では、WG 5 及び WG 8 を除く WG の審議は JBMIA, SC 35 (WG 5 及び WG 8 含む) の案件審議は情報処理学会という形式で審議を行っているが、実質的な審議は JBMIA 内で WG との合同委員会において行っている。

また国内 WG については、WG 1, WG 2(WG 7 の案件を含む), WG 4, WG 6, WG 8 の 5 つが組織されており、その WG でそれぞれの案件を審議している。なお、WG 5 については SC 35 専門委員会に対応している。

平成 24 年度は、日本提案の ISO/IEC 29136 “(Information technology -- User interfaces -- Accessibility of personal computer hardware” 1 件及び ISO/IEC 9995-10 “(Information technology -- User interfaces -- Accessibility of personal computer hardware-- Part 10” の 2 件の IS, ISO/IEC TR 13066-2 “Information technology -- Interoperability with Assistive Technology (AT) -- Part 2: Windows accessibility application programming interface

(API)”, TR 13066-3 “Part 3: IAccessible2 accessibility application programming interface (API)” の 2 件の TR が出版され, ISO/IEC TS 20071-11 “Information technology -- User interface component accessibility -- Part 11: Guidance for alternative text for images”, ISO/IEC 9995-2:2009/Amd 1 “Numeric keypad emulation)及び ISO/IEC 15897:2011/cor 1 (Information technology -- User interfaces -- Procedures for the registration of cultural elements” の 3 件も出版された。

アクセシビリティに関する関連規格として日本から提案していた JIS X 8341-2 対応の規格案(ISO/IEC 29136)が, 国際規格として出版された。来年度以降は, やはり日本が主体となって進めている 4 方向キーによるナビゲーション及びボイスコマンドの規格化を進める。また, ジェスチャーインタフェースについても, 韓国提案のプロジェクトであるがコエディタを務めるなど積極的に関与する。

SC35 の設立時から議長を務めてきた Dr. Yves Neuville がパリ総会で引退し, 釜山総会から Dr. Kharid Choukri (仏) が議長を引き継いだ。非常に効率的に議事を進めるとともに, 少数意見にもきちんと耳を傾け, 今後の運営に期待が持てる。私は携帯端末用のインタフェースに注力するようで, 昨年度からかなり力を入れている。

#### (5) JIS化作業

次のJIS原案作成活動を行った。

- ・ JIS X 7779:2012 音響—情報技術装置から放射される空気伝搬騒音の測定 (ISO 7779:2010 IDT) 改正
- ・ JIS X 6302—9 識別カード—記録技術—第9部: 触ってカードを識別するための凸記号 (ISO/IEC 7811-9:2008 IDT) 制定

#### (6) 表彰

表彰規定により以下の表彰した。

内規第2条1項(国内委員3年以上)該当: 12名

内規第2条2項(国内委員10年以上参加)該当: 13名

内規第2条3項(委員長、主査2年以上、且つ退任時) 該当: 1名

内規第2条5項(新規提案のプロジェクトエディタ国際標準発行) 該当: 1名

内規第2条8項(その他著しい貢献) 該当: 1名

#### (7) 補助金

本事業の一部は公益財団法人JKAの補助金を得て運営された。

### 1-2 今後の主要課題

ISO事務機械国内委員会はその主たる目的、即ち事務機械の国際標準化に引き続き尽くす。

#### (1) 国際標準活動業務の推進

- (1-1) 国際規格投票に対する回答原案の作成及び国際投票
- (1-2) プロジェクトエディタの積極的引き受け等による日本の貢献強化
- (1-3) コンビナー、セクレタリの活動支援
- (1-4) JTC 1/SC 28 幹事国業務 (国際議長、国際幹事)

#### (2) 日本提案の積極的支援

(2-1) 事業への応募

経済産業省平成25年度国際標準開発事業の受託

カード耐久性評価基準に関する標準化 (SC17、継続)

(2-2) プロジェクトエディタ等の引き受け継続と拡大

- ① ISO/IEC 7816-8及び-11 改正
- ② ISO/IEC 24789-2 改正
- ③ ISO/IEC 12905 改正
- ④ ISO/IEC 14443シリーズ : RFU定義の改正
- ⑤ ISO/IEC 11160-2
- ⑥ ISO/IEC 24790
- ⑦ ISO/IEC TR 29186
- ⑧ ISO/IEC 30112-1
- ⑨ ISO/IEC 30112-4
- ⑩ ISO/IEC 17549

(2-3) 新規規格日本提案の推進

(3) 国際会議への積極的な参加

(3-1) 国際会議への参加

- ・ SC17総会&WG会合 : 2013年 9月末～10月 シンガポール
- ・ SC28総会&WG会合 : 2013年6月 ウィーン (オーストリア)
- ・ SC35総会&WG会合 : 2013年8月 サスカトゥーン (カナダ)
- ・ SC35総会&WG会合 : 2014年2月 未定 (欧州)

(3-2) 国際会議の開催

- ・ SC 17/WG 8東京会議開催 (2013年6月)
- ・ SC 17/WG 3会議日本開催 (2014年2月)

(4) JIS原案作成及びJIS原案作成支援

- ・ ISO/IEC 21118:2012 (情報技術—オフィス機器—仕様書に記入すべき情報—データプロジェクタ) 改正版が発行されたことから、JIS X 6911:2003 (データプロジェクタの仕様書様式) の改正を自主提案で行う。
- ・ また、ISO/IEC 11160-2 (Information technology—Office equipment—Minimum information to be included in specification sheets—Printers—Part 2: Class 3 and Class 4 printers) の改正がStage 40.99 (DISのFDIS登録段階) 迄進んでおり、対応国際規格の開発進捗によってはJIS B 9527:2004 (事務機器—ページプリンタの仕様書様式) の改正を行う。

(5) 産業協会本体との関係強化

- ・ 交流会を開催し、国際標準化活動の成果をフィードバックするとともにニーズ探索を行う。

(6) 人材育成

- ・ 継続的な国際標準化活動のために、協会内で可能な人材育成の制度を含めて検討する。